

第4次西脇市地域福祉計画(案)に対していただいたご意見の概要と市の考え方

1 募集期間:令和7年12月1日 ~ 令和8年1月5日

2 提出件数:5件(2名)

3 主な意見とその対応

(1) 意見を反映したもの(0件)

(2) 既に盛り込み済みのもの(4件)

ページ	項目等	意見等の概要	件数	意見等への考え方
59～60	基本方向1 相談でき解決できる仕組みづくり  施策3 困難な問題を抱えた人への支援体制の強化	高齢の母を息子が刺殺した事件があり、新聞によると以前から別々に単独で窓口相談したことがあるとのこと。最悪の事態に至るまでに公的機関の支援等が緊急に求められていたのではないかと思う。 相談までに長い時間がかかったり、相談してもなかなか効果が見えなかったりするが、あきらめずに根気強い支援が必要だと思ふ。	1	市役所だけでなく地域の身近な場所にも相談窓口を設置し、虐待や暴力を受けている、又はその恐れのある世帯を早期に把握し、安全の確保及び問題解決が図れるよう体制づくりに努めております。 今後も引き続き、相談窓口の連携や関係機関との分野横断的な情報共有を強化し、様々な生活課題を抱えた人の早期発見・早期支援に努めるとともに、生活課題の解決に向けて、本人の状況に応じた支援を行ってまいります。
53～54	基本方向1 相談でき解決できる仕組みづくり  施策1 情報発信とサービス提供体制の充実	障害のある子が親の死後一人で安心して暮らし見守りの中で生活できるように、グループホームの重要性を強く感じている。 市内には知的障害者専用のグループホームがひとつあると思うが、認知症やうつ病等精神障害を持っている者が暮らしていくグループホームが少ないと感じる。 予算をつけて、少しずつグループホームの建設が可能になる事を願っている。	1	安定したサービス提供体制の確保に向けて、障害者基本計画・障害福祉計画(障害児福祉計画)に基づく各種事業を実施しております。 障害福祉サービスの共同生活援助(グループホーム)については、障害福祉計画の中で方策等を定めており、新規開設推進事業補助金の活用によりサービス事業者の参入を促進し、現在では市内6か所が運営され、今後も1か所が新規開設予定となっております。 障害のある人の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据えて、地域での生活に係る体制づくりの機能として、サービスの質の向上を図り、地域全体で支えるサービス提供体制の充実に努めてまいります。
64～65	基本方向2 支え合い共に生きる地域づくり  施策1 助け合い・支え合いの推進	住民の生活課題が複雑化、多様化する中、市や社協が相談を待つ受動的な支援体制では、困りごとを抱える住民の支援につながりにくい。住民は身近な人に助けを求めるため、日頃から見守り、困りごとを地域や市につなぐ町内・地域人材が必要である。 本市の高い町内会・自治会結成率を生かし、区長や自治会長を中心に、助け合いや居場所づくり等住民主体で進める体制と人材育成を、市の責務において進めるべきではないか。	1	地域における助け合い・支え合いが将来にわたって持続されるよう、地区まちづくりを通じた地域福祉活動を担う人材の発掘・養成を図り、地域福祉に関する啓発や情報発信を一層強化するとともに、区長会や地域自治協議会などのまちづくり団体と連携し、住民が互いに支え合いながら安心して暮らせる地域環境の整備に努めてまいります。
72～73	基本方向3 地域や福祉の人材づくり  施策1 地域福祉を支える人材づくり	第4次西脇市地域福祉計画の周知についてどのように取り組んでいくのか。 今後、住民向けにわかりやすいパンフレットのようなものを作成し配布されると思うが、町内会・自治会で住民が集う総会等で区長や自治会長が説明するように働きかけてほしい。 そのために、各地区区長会・自治会長会に出向き計画を説明されることを望む。	1	地域福祉を推進する上で、本計画の考え方や施策の展開方向について、地域住民、福祉活動団体、ボランティア、福祉事業者など全ての人々が共通の理解を持つことが必要です。市のホームページなどへの掲載や各種イベント開催時など様々な機会を捉えて、計画を広く市民に周知してまいります。 また、区長会や地域自治協議会などのまちづくり団体へも周知を予定しております。
55～58	基本方向1 相談でき解決できる仕組みづくり  施策2 包括的な支援体制の強化	重層的支援体制整備がよく理解できない。 住民の生活課題を誰が、どの組織が中心となって支えていくのか、これが曖昧であり、これを明確にしないと成果が得られないのではないか。	1	本市では、重層的支援体制整備事業の包括的相談支援事業の体制として、相談窓口の一本化ではなく、既存の窓口において、世代や属性を問わず相談を包括的に受け止め、適切な部署へつなぐ切れ目のない支援を連携型で行うこととしております。 どの窓口にも相談いただいても支援に応じる体制を構築してまいります。

(3) 反映困難なもの(0件)

(4) 今後の参考とするもの(1件)

ページ	項目等	意見等の概要	件数	意見への考え方
66~68	基本方向2 支え合い共 に生きる地 域づくり  施策2 多様な交流 とふれあい の推進	3年ほど前から市が実施している「OriOri」に参加している。市の支援体制につながることで少し安心した部分はある。ただ、担当者が1年ごとに替わるため、やっとならなれたら一から人間関係を再スタートさせなくてはならず、だんだん負担に感じてくるようになっていく。プツプツと支援がとぎれていくようでは落ち着かない。せめて3年程は継続して担当してほしいと思う。スタッフの方々の経験やアドバイスは大きな力になるので、スタッフの専門性を高め、居場所としての安心感を育ててほしい。	1	「OriOri」では、交流のきっかけと場づくりとして、自宅以外でゆっくと過ごせる居場所の提供を行い、社会参加を段階的に支援しております。 1 利用者一人ひとりのニーズに合わせた支援ができるよう、スタッフの専門性を高め、行政と関係団体が連携を密にして、職員の異動があった場合でも安心して利用できる環境づくりに取り組んでまいります。

(5) その他(0件)